



1975 - 2004
ANNIVERSARY *30th*

『発足 30 周年記念誌』

社団法人 東京青年会議所 荒川区委員会



『The Creed of Jaycees International』

We Believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
Transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
By free men through free enterprise;
That government should be of laws
Rather than of men;
That earth's great treasure lie in
Human personality; and
That service to humanity is the best
Work of life.

『JC 宣言』

日本の青年会議所は

混沌という未知の可能性を切り拓き

個人の自立性と社会の公共性が

生き生きと協和する確かな時代を

築くために

率先して行動することを宣言する

『JCI 綱 領』

我々はかく信じる:

「信仰は人生に意義と目的を与え
人類の同胞愛は国家の主権を超越し
正しい経済の発展は
自由経済社会を通じて最もよく達成され
政治は人によって左右されず法によって
運営さるべきものであり
人間の個性はこの世の至宝であり
人類への奉仕が人生最善の仕事である」

『綱 領』

われわれ JAYCEE は

社会的・国家的・国際的な責任を自覚し

青年としての英知と勇気と情熱をもって

明るい豊かな社会を築き上げよう

『発足 30 周年を迎えて』

本年は、社団法人 東京青年会議所 創立 55 周年並びに地区委員会発足 30 周年という節目に当たり、東京全体としても、荒川区委員会としても重要な転換期の年と言えるのではないのでしょうか。

本年度の荒川区委員会の活動方針に、「地域の方々との密接な交流を作る」としてありますが、その関係や流れをもう一度、再認識する為に、諸先輩が築き上げてきた過去の歴史を知る事が重要だと感じました。30 年間という月日を簡単に言い表す事ができませんが、記念誌を作成する事により、現役メンバーやこれから入会するメンバーに対し、輝かしい歴史を感じ、これからの JC 運動や活動を通じて、「明るい豊かな社会」の実現が出来る信じ、少しでも近づきたいと考えます。

以上のような趣旨により「荒川区委員会 発足 30 周年記念誌」を作成する事に致しました。この記念誌が、皆様にとりまして良き思い出や今後の委員会活動の参考になれば大変幸いです。



社団法人 東京青年会議所 荒川区委員会
第 30 代委員長 小泉 浩章



『設立趣意書』

新日本の再建は我々青年の仕事である。

更めて述べる迄もなく今日の日本の実情は極めて苦難に満ちている。この苦難を打開してゆくため採るべき途は先ず国内経済の充実であり、国際経済との審接なる提携である。

その任務の大半を負っている我々青年は、あらゆる機会をとらえて互に団結し自らの修養に努めなければならぬと信ずる。

既に欧米の各地においては青年商工会議所が設立せられ、一九四六年にはこれらの世界的連絡機関としての国際青年商工会議所さえ設置せられておる。われわれはこれ等の国際機関との連繋は素より、青年の持つ熱と力とを以って産業経済の実勢を究め、常に認識を新たにして、その責務の達成を期したい。

ここに政治経済の中心地、東京に在る我々青年はその使命の極めて重大なるを思い、同志相寄り東京青年商工会議所の設立を企図した次第である二(原文のまま)

『Jaycee 三原則』

- I 社会への奉仕
- II 指導者訓練を基調とした修練
- III 世界との友情

『青年会議所とは』

500 字解説文

青年会議所（JC）は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感をもった 20 才から 40 才（東京 JC は 25 才から 40 才）までの指導者たらんとする青年の団体です。青年の人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会できます。

40 余年の歴史をもつ日本の青年会議所運動は、めざましい発展を続けておりますが、現在 750 余の都市に 6 万余名の会員を擁し、全国的運動の総合調整機関として日本青年会議所が東京にあります。全世界に及ぶこの青年運動の中核は国際青年会議所ですが、111 ヶ所の国及び地域に 100LOM（国家青年会議所 1996 年）があり、約 32 万人が国際的な連携をもって活動をしています。

日本青年会議所の事業目標は、「社会と人間の開発」です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求め社会開発計画による日常活動を展開し〈自由〉を基盤とした民主的集団指導能力の開発をおし進めています。さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創りだすため、市民運動の先頭にたって進む団体、それが青年会議所です。

2000 字解説文

～理念と目的～

青年は理想に燃え、未来への期波を常に強く持っています。希望に満ちた明るい豊かな社会、正義が行なわれる理想の社会の実現を心から熱望するために、青年は次代の担い手として大きな責任を自覚し、新しい世界のための推進力にならないとを考えます。

青年のこの夢を実現するため、同じ理想と使命感を持った若い世代の人々を広く共通の広場に集め、友情を深めつつ、強く影響し合い、刺激し合って、「若さ」が持つ未来への無限の可能性を自分たちの手で効果的に描き出し、「明るい豊かな社会」を目指して、青年の情熱から生まれる果敢な行動力を結集すべく、組織された団体が青年会議所（JC=Junior Chamber）です。「われわれ、JAYCEE（青年会議所）は社会的、国家的、国際的な責任を自覚し、志を同じうする者相集い力を合せ、青年としての英知と勇氣と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう」との日本青年会議所綱領は青年会議所の決意、行動理念と目標を明確に表現しています。

～特 質～

青年会議所を他のすべての団体から区別する最大の特徴は、会員の「年令制限」にあります。会員はいかなる人種、国籍、性別、職業、宗教であってもかまいませんが、年令満 20 才から 40 才までであることを要し、「品格のある青年」でなければなりません。したがっていかに長時間にわたり、有能で活動的な会員であっても、満 40 才に達した翌年には退会しなければなりません。この素晴らしい年令制限のゆえに、青年会議所は絶対に若さを失わず、常に希望に溢れ、未来に向けた前進を続ける団体として活動することができるのです。

青年会議所は世襲経営者のサロンクラブではありませんし、単に社会奉仕を行う団体でもありません。青年会議所は未来を目指し、より良き明日をめざしてわれわれの住む地域社会・国家・全世界のために、今日のわれわれが犠牲を払うことを厭わず、常に進歩への挑戦を行う。理想と具体的総合的な施策をもった青年指導者の運動です。

～組 織～

会員は自分が住んでいる都市にある青年会議所に所属しています。われわれが会員であることは市民としての自発的な自由な意志によるのです。それゆえこの運動の単位は、あくまで各地青年会議所の日常の活動にあります。

1949年2月、東京に始まった日本の青年会議所運動は、40余年の歳月を経て、戦後日本の民間運動の白眉といわれるほど拡大発展を遂げました。現在、日本のすみずみにわたり750余都市で活動を続け、会員6万余名を擁する、戦後、青年運動最大の団体となりました。

全国750余の青年会議所はそれぞれ集まって、ブロック協議会を構成し、さらにそれが日本を10地区に分ける地区協議会に集められ、それらを総合調整する機関として日本青年会議所があります。日本青年会議所は国際青年会議所（JCI=Junior chamber International）に加盟して、国際的なJC運動の一翼を担って活動していますが、世界中には約45万人の会員が同じ理念のもとに国際的な同志感をもって運動を続けています。

～事業目標「社会と人間の開発」～

創立以来の「個人の修練、社会への奉仕、世界との友情」の青年会議所の3信条は、われわれの運動40余年の展開の中で、年を追って具体化され、青年会議所運動とは要するに、「指導力開発と社会開発」であるとの事業スローガンに固まってきました。われわれ全員は市民社会の一員として市民と共通の生活基盤に立ったものの考え方見方を出発点とし、市民の共感を求め、住みよい明るい豊かなまちづくりに向かって努力するとともに、青年会議所の日常活動の場を通じて、われわれ個人個人をよりよく開発することが青年会議所運動にほかならないと考えます。

青年会議所の「指導力開発」とは民主的な集団指導力あるいは集団運営能力の研究と実践であるといわれます。まず会員個人かすぐれた市民、職業人であるために自らを厳しく訓練し、さらに市民社会の中にあって、市民を目標に向かって一致協力するように働きかけながら市民とともに進む。その全過程が青年会議所のいう指導力開発です。

指導力開発を推進するもっとも有効な手段として、青年会議所は「社会開発計画」事業を中心とする運動をもっています。会員一市民が住むまちの明るい豊かな明日のために、それぞれまちの問題を市民の中から掘りおこし、市民とともにその解決をはかるという方法です。

青年会議所運動は自由な自発的な意志より加入した会員の起こす運動であるからには、われわれのまちの市民運動の中心でなければなりませんし、市民にその意義を認められなければなりません。

青年会議所運動の目標は「明るい豊かな社会」の創造であり、その新しい社会をリードするにふさわしい人を数多くつくることです。青年会議所とその運動は決して完成されたものではなく、社会の進歩とともに、さらに発展していくと思われまふ。

青年会議所は時代とともに新しい呼吸を続けに次々と新しい青年がこの団体を背負っていくでしょう。

青年会議所は常に英知と勇気と情熱を持った青年を求めて、その門戸を大きく開いています。

—CONTENTS—

ごあいさつ	1
青年会議所とは	3
過去 5 年間の運動報告	8
秋期事業「クリエイティブ荒川デジタルパーク」	
わんぱく相撲 荒川区大会	
公開討論会	
会員拡大	
今後の運動展開	16
秋期事業	
わんぱく相撲 荒川区大会	
公開討論会	
会員拡大	
歴代委員長インタビュー	22
褒章一覧	34
編集後記	36

『過去5年間の運動報告』

1. ①目的とテーマ

「事業」を行う目的は、東京 JC の理念「明るい豊かな社会」の実現である。1999 年（平成 11 年）、東京 JC 創立 50 周年に伴い我々メンバーは、どのように地域特性を活かした具体的な運動展開を行うかについて調査・研究を重ね、「荒川区委員会 答申書」という形で回答を出した。そこでは今後の方向性を「首都東京」と地域（荒川区）の視点を踏まえた問題点を抽出し、3つの基本目標と10の小テーマ、それを受けた荒川区26の課題とし、今後の運動展開がまとめられた。また、それに沿った新たな委員会スローガン「住みよい街づくり・人づくり TOKYO-ARAKAWA21」を掲げられ、コミュニティの重要性に関し、'97 市民に対する調査研究、'98 企業に対する調査研究を踏まえ「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク計画～」コミュニティの実践がスタートした。

（参考資料：25 周年記念誌 今後の運動展開と方向性 荒川区 26 の課題）

②事業報告

1999 荒川区委員会「答申書」（中長期ビジョン）策定

委員長 尾賀道弘

担当副委員長 磯川武志

2000 事業「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク計画

～コミュニティの実践～

委員長 磯川武志

担当副委員長 大原 誠

事業報告 市民（学校）コミュニティーの実践

地域市民のためのコミュニティをインターネット上に立ち上げる

延べ参加者数 226 名（メンバー、来賓、関係者、一般含む）

講師：コスモメディア㈱ 事業部長 村越裕之氏

後援：荒川区、荒川区教育委員会、東京商工会議所荒川支部

2001 事業 「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク 2001

～ネットデイ～

委員長 中村健一

担当副委員長 崎山知尚

事業報告 荒川区 7 校の小学校高学年教室に地域市民による LAN 配線

工事をボランティアで実施し、不要パソコンのリユース

延べ参加者数 334 名（メンバー、来賓、関係者、一般含む）

後援：荒川区、荒川区教育委員会、荒川区 PTA 連合会

協力：東京都荒川区青年団体連合会、荒川スクエア協議会

2002 事業「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク 2002
～コミュニティネットワーク～」

委員長 村越裕之

担当副委員長 佐藤達也

事業報告 荒川区小学校 2 校でインターンシップ実施

地域市民に対する小学生パソコン先生

延べ参加者数 456 名（メンバー、来賓、関係者、一般含む）

パネラー：上野和彦氏（教育委員会委員、学芸大学教授）

三崎 修氏（エコ・コミュニケーションセンター事務局長）

小林和夫氏（インターネットを楽しむ会会長）

小林清三郎氏（当委員会OB）

末吉潤一氏（荒川区立第三日暮里小学校教頭）

矢崎良和氏（荒川区立尾久西小学校教頭）

コーディネーター：村越裕之君（荒川区委員会委員長）

後援：荒川区、荒川区教育委員会、荒川区 PTA 連合会、
荒川区社会福祉協議会

協力：東京商工会議所荒川支部、荒川ベンチャー協議会、
荒川区内外の NPO 団体

2003 事業「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク 2003
荒川サミット～高度情報化社会における地域活性～」

委員長 横田剛一

担当副委員長 飯沼将和

事業報告 荒川区東日暮里地区の店舗紹介HPの作成及び地域ポータル
サイトの立ち上げ

パネラー：利根川昌弘氏（荒川区商店街連合会副会長）

森谷 新氏（東日暮里三丁目日本町会会長）

西 樹氏（シブヤ経済新聞編集長）

コーディネーター：佐藤達也君（荒川区委員会委員）

延べ参加者数 322 名（メンバー、来賓、関係者、一般含む）

後援：荒川区、荒川区教育委員会、東京商工会議所荒川支部

協力：荒川区 IT 推進協議会

③-1 「デジタルパーク 2000」

「コミュニティの実践」に重点を置き、「地域情報の受発信の推進」を年度テーマとして活動を開始した。そして現在最もポピュラーな情報媒体として「インターネット」があるが、それをういて産・官・学・民が連携を持ちコミュニケーションの醸造「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク計画～コミュニティの実践」事業として開催した。



デジタルパークトップページ

デジタルパークは、「地域学校の広場」「地域団体の広場」「地域企業の広場」というカテゴリーに別け、地域市民のための井戸端会議のできる公園をインターネット上に作成し、情報の受発信を試みた。

次代を担う子供たちを集め、夏休みの空いている小学校のパソコンルームを活用して、区内小学校6校で、「ホームページの作り方教室」を開き、各自の学校のホームページを児童が作り発表会を開催した。



区内小学校24校のリンクページ

この事業で、荒川区内全ての区立小学校（24校）のホームページがインターネット上に公開され、東京都内では初めての出来事として注目を浴びた。また、東京JCでのデジタル活用事業推進の先駆けとなった。

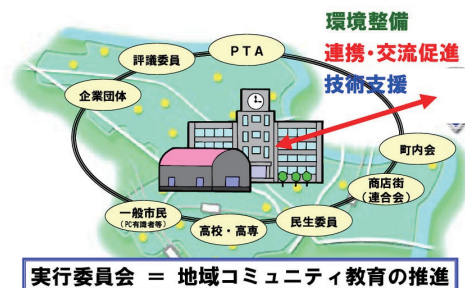


児童ホームページ発表会

③-2 「デジタルパーク 2001」

～広がるコミュニケーションの輪～

デジタルパークと地域コミュニティ融合と活性化を狙い、区内小学校7校で「ネットデイ」を開催した。



小学校を核とした地域コミュニティの図

本事業では、東京都で最初に全小学校にインターネットの接続が完了した荒川区の後援の下、小学校のパソコン教室だけでなく、各教室でインターネットが気軽に活用できるよう、地域ボランティア、小学校関係者、親子が協力して配線工事を行い、地域コミュニティの活動が実践された。



LAN 工事

LAN 工事が終わり各教室にインターネットの接続が完了し、HP の検索や小学校同士でメールのやりとりが行われ、デジタルを用いた地域コミュニケーションの広がりを感じさせた。

また、企業や団体で不要になったパソコンを再利用する（リユース）という視点からも評価された。



LAN が繋がった教室のパソコン

「ネットデイ」とは、家庭・学校・企業等で不要となったパソコンの寄付を募り、地域ボランティアと学校に通学する親子が中心となり、自らの手で学校の教室に設置・接続を行ない、児童が休み時間にパソコンを自由に活用し、インターネットに気軽に触れる機会を作る事。

③-3 「デジタルパーク 2002」

東京 JC の「スクール オアシス エリア」構想をベースに前年から継続して、地域の最小単位である「小学校」を地域のコミュニケーションの「核」とする「コミュニテ

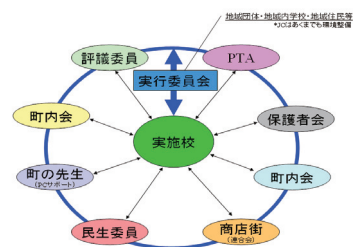
ィネットワーク」を開催した。

この事業は、産・官・学・民を巻き込んだ「インターンシップ」を小学校で行い、「小学生先生」によるデジタルデバイト解消に向けた授業を地域のデジタル弱者である高齢者に向けに行った。世代を越えた手と手が触れ合うコミュニケーションで、子供たちは、礼儀や文化を肌で感じ、生徒である大人たちはパソコンを学んだ。



小学生先生

本事業は、当委員会が主催しているのではなく、荒川区が行っているという情報が流れ、その評判を聞いた方から区に問い合わせがあったという。そして荒川区長からも是非とも本事業の継続をと要請された。



「インターンシップ」とは、学生が就職する前に社会や業界を知る為、また、職業観を身に付けたりする為に一般企業の業務を無償で体験する事。

「デジタルデバイト」とは、PC やインターネット等の情報（IT）を使いこなせる者と使いこなせない者との間に生じる待遇や機会の格差。

③-4 「デジタルパーク 2003」

～デジタルと地域活性の融合～

コミュニティの重要性和活性化の調査研究から始まった地域コミュニティ実践の集大成として、「クリエイティブ ARAKAWA デジタルパーク 2003 荒川サミット～高度情報化社会における地域活性～」の事業を行った。



みんなのまちトップページ

本事業では荒川区の「荒川ポータルサイト」の構築の機運に連動し、また、小学校を核とした地域コミュニティを活用し、「地域ポータルサイト」の構築方法の成功事例を創造し、地域限定で「日暮里ポータルサイト」を完成させた。今までの事業で関係の深い小学生を特派員として、子供達による企業・タウン情報収集、編集・ホームページを作成させ、2000年に立ち上げた「デジタルパーク」にリンクを張り「みんなのまち情報 西日暮里・東日暮里ポータルサイト」に掲載した。



来賓と来場者

今事業で構築した「日暮里ポータルサイト」に関しては、構築のノウハウごと「荒川区IT推進協議会」に全面的に移管することで地域社会の自発的運用を促した。



小学生特派員

「ポータルサイト」とは、インターネットの入口となる巨大な Web サイト。

ユーザーがインターネットで必要とする機能すべてを無料で提供し利用者を増やし、広告や電子商取引の仲介サービス等で収入を得るサイトの事。



「デジタル (IT)」という手法を用い、地域活性、コミュニティの醸造という結果を7年間かけて運動してきた。「住みよい街づくり・人づくり TOKYO-ARAKAWA21」の具体的な運動であり、その先には東京JCの基本理念である「明るい豊かな社会」がある。その実現の為に我々に活動は休むことはなく、インターメディアリーとしての責務を果たすと共に、地域社会の更なる活性化を促す運動を行っていく。

2. わんぱく相撲荒川区大会

①わんぱく相撲の目的

継続事業として続けられている「わんぱく相撲地区大会」は、子ども達が日本の国技である相撲を通して、身心の鍛練と健康の増進を図り、相撲の勝負だけにこだわる事なく、勝つことの喜び、負けることの悔しさを体感する事により、勝者を称え、敗者への思いやりを育むこと、そして地域の責任ある大人が協力し、その環境を育んでゆく事を目的とする。

②事業報告

1999 事業「第23回わんぱく相撲 荒川区大会」

担当副委員長 中村健一

事業報告 (5月8日荒川総合体育館大体育室)

高齢化社会が進む中、シルバーエイジのかたがたにも協力をいただき大会を盛り上げた。

参加者数 615名・名倉病院医師2名

後援：荒川区教育委員会・荒川区PTA連合会・東京商工会議所荒川支部

協力：荒川区・荒川区青年団体連合会・東京都トラック協会荒川支部青年部

区内消防署、区内警察署・荒川区高年者クラブ・南千住太鼓同好会



1999 大会運営本部



1999 熱戦の様子

2000 事業「第24回わんぱく相撲 荒川区大会」

担当副委員長 塚田政成

事業報告 (5月13日荒川総合体育館大体育室)

区民祭(川の手荒川祭り)との合同開催を目指し、区民祭に参加し動員を図った。

参加者数 705名・名倉病院医師2名

後援：荒川区教育委員会・荒川区PTA連合会・東京商工会議所荒川支部

協力：荒川区・荒川区青年団体連合会・東京都トラック協会荒川支部青年部

区内消防署、区内警察署・南千住太鼓同好会



2000 南千住太鼓同好会



2000 5 年生男子入賞者

2001 事業「第 25 回わんぱく相撲 荒川区大会」

担当副委員長 小木忠之

事業報告 (5 月 12 日荒川総合体育館大体育室)

区民祭(川の手荒川祭り)にて会場にブースを出展し、地域社会との交流を図りわんぱく相撲のPRを行った。会場では簡易土俵を作り、幼児から中学生に相撲を体験してもらい荒川区大会への参加を呼びかけた。

大会は「新世紀! 広げよう、笑顔でありがとう」を参加者全員に伝え、会場には社会教育の場として、交通安全・消防・清掃ブースを設置して大会を盛り上げた。また、25 回記念として元プロボクシング WBA スーパーフライ級 世界チャンピオンのセレス小林氏に子供たちへの激励を頂いた。

参加選手数 261 名 参加者数 673 名

後援: 荒川区教育委員会・荒川区 PTA 連合会・東京商工会議所荒川支部

協力: 荒川区・荒川区青年団体連合会・東京都トラック協会荒川支部青年部

区内消防署、区内警察署



2001 セレス小林氏



2001 大会の様子

2002 事業「第 26 回わんぱく相撲 荒川区大会」

担当副委員長 渡辺健次

事業報告 (5 月 13 日荒川総合体育館大体育室)

昨年同様、4 月 29 日には区民祭(川の手荒川祭り)に参加してわんぱく相撲のPRと荒川区大会の参加を呼びかけた。大会は「広げよう、心にとどく、ありがとう」を参加者全員に伝え、新たに 3 団体のボランティアの協力を得て、会場ブースもモンゴル相撲実践ブース・F C 東京ブースを増設した。また、今回初めて学校対抗団体戦を行い大盛況に終わった。

参加選手数 245 名 参加者数 756 名

後援：荒川区教育委員会・荒川区 PTA 連合会・東京商工会議所荒川支部

協力：荒川区青年団体連合会・東京都トラック協会荒川支部青年部

区内消防署、区内警察署・荒川相撲甚句会・NPO 法人よせぎ

アジアンロード・東京フットボールクラブ(株)・荒川区環境清掃部



2002 熱戦の様様



2002 モンゴル相撲

2003 事業「第 27 回わんぱく相撲 荒川区大会」

担当副委員長 加川清武

事業報告 (5 月 10 日荒川総合体育館大体育室)

本年は、わんぱく相撲を今一度理解してもらう為に、3 週にわたり小学校 9 校でチャレンジサタデー相撲教室を開催した。

大会は「伝えよう愛 ひろげようありがとう」を参加者全員に伝え、わんぱく相撲 OB の青年達や尾久八幡中学校吹奏学部の生徒に入場行進を生演奏で行い、大会運営に協力をいただいた。

参加選手数 276 名 参加者数 774 名

後援：荒川区教育委員会・荒川区 PTA 連合会・東京商工会議所荒川支部

協力：荒川区青年団体連合会・東京都トラック協会荒川支部青年部

区内消防署、区内警察署・荒川区環境清掃部・東京フットボールクラブ



2003 入賞者集合



2003 練習会(武蔵川部屋)

3. 公開討論会（2001・2003）

①公開討論会の目的

私たち、社団法人東京青年会議所は、その理念に掲げる「明るい豊かな社会を築き上げよう」を実現する上で、「政治と行政」との関わりはさけて通ることは出来ないと考える。今、日本では、大きな時代の転換期を迎えており、その中で情報公開を始めとしてよりオープンでクリーンな政治を求めて動き出している。しかしながら、一般市民にとって、政治・行政は関わりが薄く縁遠いものとなり、投票率の低下に歯止めがかからないという傾向が見受けられ、市民の政治離れはますます加速する勢いとなっている。この現状を変革し、日本の未来を素晴らしいものにしていくためには政治の役割は大変重要だと考える。そのためには市民の政治参加が絶対的に必要であり、今までのような

人任せ、政治家任せの考えから脱皮し、今までとは違った新しい手法で市民が主体的に政治に関わっていく必要がある。

いま有権者は見える政治を望んでいる。そして、それを実現させる第一歩が公開討論会であると私たちは考え、この公開討論会は、公正中立な立場で設営運営されることが絶対条件であり、その意味からも公益社団法人である東京青年会議所は、市民と政治の間に立ち、これを実現させることが重要な使命だと考え取り組んだ。

2001 事業 「荒川区区長選挙公開討論会」

担当副委員長 大原 誠

5月18日開催 ムーブ町屋・ムーブホール 動員 223名

候補者：荒井靖夫氏・春日井明氏・竹内一浩氏・藤澤志光氏・吉村光男氏

荒川区長選挙の立候補予定者に、現在の荒川区の抱えている課題や対策そして今後の荒川区の有るべき姿を述べていただき、参加頂いた一般有権者に政治を身近な問題として捉えてもらい政治への関心を高めた。



公開討論会の模様



コーディネーターと手話

2001 事業 「都議会議員選挙荒川区公開討論会」

担当副委員長 大原 誠

6月13日開催 ムーブ町屋・ムーブホール 動員 195 名

候補者：荒川琴美氏・鈴木貫太郎氏・鈴木賢一氏・北城貞治氏

前回の荒川区長選挙公開討論会の経験を活かし、質疑応答とは別に、最後に3分間の自由発言時間を設け、一人ずつ前に出て発言頂く事により各候補予定者の公開討論会に対する参加意識をより深めて頂けた。



2003 事業 「東京第14区会衆議院選挙公開討論会」

担当副委員長 佐藤達也

10月21日開催 ユートリア生涯学習センター 動員 160 名

候補者：井上かずお氏・伊藤文雄氏・西川太一郎氏・松島みどり氏

同じ選挙区の括りである墨田区委員会との合同事業（主管墨田区委員会、副主管荒川区委員会）でした。衆議院解散後実質2週間強と言うタイトな準備期間でしたが、過去の経験を踏まえ墨田区との連携も良く立候補予定者全員の出席を得ることが出来た。



過去、3回の討論会の開催を踏まえ、当日の動員の難しさを実感した。前記したように、討論会の目的は、投票率の向上でありその為には、当日の動員増が不可欠であると考え以下に解決策を掲げる。

①チラシ、HP、ケーブルテレビ、等を通じ積極的に市民へのアナウンス。

②有権者等より質問事項を募集し、精査し、有権者に参加意識を高めて頂く。

③行政、NPOを含む各種中立な団体、OBを通じ幅広く意見を聞き運営に活かす。

アンケートの回答で一番多かった内容だが「公平、中立にこだわり過ぎつまらない・・・」この意見に関しては、意見のわかれる所であるがより臨場感のある設営を心がける必要がある。

4. 会員拡大（1999～2003）

この5年間の会員拡大は、「明るい豊かな社会を築く」ため、「会員拡大運動の習慣化」の実現を目指し、重点を置き活動してきた。しかしながら、2001年の10名の会員拡大以降は、社会情勢の厳しさからか、目標の拡大人数に届かず減少傾向にある。当年も4名の卒業生がおり、委員会運営に支障をきたしかねない状況であり、今後も会員拡大が最重要課題である。

年度	1999	2000	2001	2002	2003
スタート人数	19名	17名	19名	24名	20名
拡大人数	3名	5名	10名	4名	2名
卒業生人数	1名	1名	2名	4名	4名

『今後の運動展開』

1. はじめに

～過去5年間の活動について～

1999年度に、当委員会25周年の節目にあたって答申書を策定し、その答申書の理念に基づいて2000年以降の指針として今日まで活動してきた。また、荒川区委員会25周年と同様に東京青年会議所においても50周年を向かえ『NEXT50へ』というスローガンと、「ノーブルスオブリージ」「インターミディアリー」という2つのキーワードのもと、次の50年へむけて新たな一步を踏み出した。

この2つのキーワードを念頭に置き、荒川区委員会では、「わんぱく相撲荒川区大会」「クリエイティブ荒川 デジタルパーク計画」（4年継続秋期事業）「公開討論会」「会員拡大」を主事業として活動してきた。特にわんぱく相撲荒川区大会については、本年度で28回目を迎

え、地域の年中行事となるほど定着してきたと評価できる。荒川区委員会では、30 周年の大きな節目を迎えるにあたり、過去を振り返るためにもこれまでの5年間の委員会活動を検証・総括し、明るい豊かな社会を目指していくためのメルクマールとなるべきものを策定することが必要と考える。



東京 JC50 周年式典

～基本的な考え方～

第一に、JC 宣言文や綱領で謳われている役割や社会的責任を今一度自覚し、原点に立ち返って今後委員会として進むべき方向性を示していかななくてはならないと考える。

そして東京青年会議所という LOM 内の一地区委員会とはいえ、これまで先輩諸兄から受け継いできた良き伝統に配慮しつつ、激変する社会構造の変化に対応し、時代の要請に応えていくためにも不易流行の精神で、地区委員会独自の発想のもと諸課題に取り組んでいかななくてはならない。

～連携～をキーワードとして～

東京青年会議所では、今後取り組むべきテーマとして「教育」「福祉」「経済」「環境」「政治・行政」「国際」「NPO」7つの政策カテゴリーに分類して政策提言をしている。地区委員会の役割としてそれらのテーマ全ての考え方を包含したうえで、事業実施に当たってはテーマを絞り込み、その具現化に当たる。そして今後のあらゆる活動に求められるものは“連携”と考える。

先述の主要四事業実施にあたっては、委員会メンバーだけで完結するのではなく、企画・動員等、地域団体との連携協力の有無が事業の成否の鍵となるといえる。



2. 秋 期 事 業

～現状の問題点～

JC は単年度制をとっている為、毎年委員長及びスタッフが入れ替わる。その為「事業」を行うにあたり関係諸団体・行政に対して接するメンバーが毎年変わり、コミュニケーションを図るうえでマイナス要素となっている点は否めない。また、「事業」が終了した後の検証がなされていないため、その後どのような状況になっているか把握されていないのが現状である。

しかし、単年度制の問題は見方を変えれば、毎年それぞれの新しいメンバーによる新鮮な活動を生む原動力にもなる。そして、これらを解消する為の1つとして関係諸団体・行政等に対し JC の組織をよく説明し、理解してもらおうとする我々の努力も必要であると考え。また、次年度メンバーに対して毎年の引継を細部にわたり行い、今まで行ってきた「事業」の必要資料等を整理して保管しておくシステムづくりにより改善されると思われる。



～事業のあるべき姿～

今後「事業」を行うにあたっては地域に根ざした運動展開をするべきであり、これを行う限り行政はもちろん地域の諸団体並びに地域住民を巻き込んだ形での運動展開を考えていかなければならない。

我々の運動は、自らのみで活動するのではなく、他団体との連携や相互補完、更には他団体同士の活動を効果的に集約する、「インターメディアリー(主体的仲介者)」としての役割も果たさなければならない。

但し、インターメディアリーとは、単に仲介者としての役割ではなく、我々もその活動における主体者として自覚し、常に率先して行動する「主体的仲介者」としての役割であることを十分に理解せねばならない。

効果的な「事業」を構築するには、地域の問題を様々な角度から検証し、「問題の本質を見極める」ということが重要である。何故そのことが問題であるかをしっかりと調査し、問題の起因が何であるかを、決して既成概念に囚われることなく「多元的・複眼的」に分析することによって、必ずその本質が見出せるものである。

事業構築においては、“未来志向・理想型を視野”に入れた本来在るべき姿を明確に掲げ、その理想とする形と現状との差違を縮める戦略として、独自性や先見性を持った「実現可能な

政策」を打ち出すことが必要である。

また、事業実行において最も重要なことは、事業とはその目的や政策を検証する“一つの通過点”であることを常に認識しなければならない。従って、その成果に対しては客観的に評価・分析を行ない、政策へのフィードバックと、今後の方向性や進度の修正によって次なる構築が行えるのである。

現在、我々は、社会における様々な問題の切り口として「教育、福祉、経済、環境、政治・行政、国際、NPO」という7つをテーマとして掲げ、具体的な課題とその政策を持って活動している。しかしながら各テーマにおいては、単体で取り組むべき課題ではなく、ひとつの問題に対して重点的に取り組む“主テーマ”であるということを認識し、常に全ての視点から複眼的に捉えたうえで活動しなければならない。

そして、現在荒川区が抱える課題として高年齢化と産業の縮小化が挙げられる。高齢化率（65歳以上）については23区中21番目であるが、高い割合を占めてることには変わりはなく、元気高齢者への新たな労働力として活動する場の提供と、次世代への文化継承の役割が求められている。また、産業についても区内事業所数の減少、製造業における売上高の激減、そして事業継承問題についても顕在化しつつある。

以上のような事を念頭におきながら「明るい豊かな社会の実現」、そして荒川区委員会が掲げるスローガン「住みよい街づくり・人づくり」に近づけるよう日々の活動を行っていききたい。また、事業構築においては「地域活性化」と「連携」をポイントに主テーマを「経済」に置きながら「教育」を取り入れ今後の事業の方向性を探っていききたい。



3. わんぱく相撲荒川区大会

～現状の問題点～

運営において他地区のメンバーを頼りすぎている面があり、地域密着型の大会を目指すには、今現在特に協力人数の少ないPTA・地域の方に協力をしてもらう事が必要である。

わんぱく相撲の主旨、相撲を通じて「勝つ事の喜びと負ける事の悔しさを体験する事で、勝者を称え敗者を思いやる事を体験させる」事と青少年健全育成を大前提とした目的がまだ、参加者全員とJCメンバー以外の関係者にも完全には、認識されていない。各学校にわんぱく相撲の参加意識の温度差があり、70名の参加校もあれば1名の参加校もある。

～将来への展望～

東京青年会議所の代表事業と言える「わんぱく相撲」の2007年までの移管にあたり、荒川区委員会では移管について今までも数々の議論をしてきた。しかし、実行委員会組織についてさえも確立できていないのが現状である。荒川区委員会では実行委員会組織で運営をしていく方向ではあるが、現時点での、2007年までの移管の方向は考えていない。

現在当日設営において、多地区メンバー及び当日のみのボランティアメンバーに頼り過ぎている面があり、万が一同日イベント開催等により設営メンバーが減ることに成ると、当日設営に支障をきたすこととなる、そのため地域密着型の実行委員会組織化を目標とした人材育成が必要と考える。

ボランティア団体、わんぱくOB、地域学生、PTA、地域住民の積極的な荒川区委員会開催のわんぱく相撲荒川区大会実行委員会への参加動員を行い、わんぱく相撲の主旨をより理解してもらい、年々大会運営組織のレベルアップを図る必要がある。また、レベルアップを図った上での、設営及び動員を考えると現段階以上の荒川区、荒川区教育委員会の協力が絶対に必要であり、地域住民で作られた実行委員会組織とのパイプを太くすることにより、より良い学校・家庭・地域住民三位一体の理想的な大会運営が行えると考えられる。結果、わんぱく相撲を通じ、青少年健全育成と地域の活性化に繋がると確信する。



4. 公開討論会

選挙における投票率の低下は、複雑な社会構造を背景とした政治のわかりにくさと有権者が立候補予定者の考えを見聞きする機会が極端に少ない事に原因がある。

立候補予定者を一同に参集賜り、それぞれの政策等を直接生の声で聞くことが出来、政策論争をして頂き、有権者の投票の際の有益な判断材料を提供し結果、投票率の向上に努めたい。



現在、公開討論会の開催については、公職選挙法上、例えば告示日以後においては立候補者が合同で主催する立会演説会しか許されていない。つまり立候補者以外は開催することができないとか、あくまでも政治活動であるため公約に関する質問をすることができないなど様々な制約がある。主権者たる市民が、立候補者の政策などを直接聞くことができる場を自らの手で自由に設けることができることは、志民社会の形成の上でも重要なことである。公開討論会の開催を通じてその重要性を市民の皆様や政治を志す方々に広く知っていただき、公開討論会の開催が市民の手によってより自由に行い得るよう、積極的な運動展開を図っていきたいと考えている。

4. 会員拡大

「会員拡大の第一歩は委員会の活性化から」

当年、次年度と7名の卒業者がいることを考えると、会員拡大が最重要課題である。我々JCは「率先して行動する集団」として、現在の体制・運動を維持していくためには、入会3～5年のメンバーが全体の半数を占めことから、常に新しい体質へと変化していく必要があり、それが主因となって、組織が活性化していくのであると考える。メンバーの拡大に苦しむ現在、再度足元を見直しながら、何のためにJC活動をしているのか、地域の人々が参加したくなるJC運動になっているのか、などを再検証し、将来のビジョンを明確化し、入会したくなるような、参加したくなるようなJC運動を展開していく事が必要だと考える。

年度	2004	2005	2006	2007	2008
スタート人数	19名	17名	20名	24名	30名
拡大人数	2名	6名	6名	6名	6名
卒業者人数	4名	3名	2名	0名	3名

- ①委員会メンバーの拡大意識を高め、特に委員長、会員拡大担当がリーダーシップをとり実行する。
- ②JCの理解者・協力者（OB含め）を増やし、入会候補者の紹介をしていただけるよう委員会の活性化を行っていく。
- ③入会候補者を増やし、委員会、例会、事業等の案内の他、候補者に対してのフォローアップをメンバー全員で行っていく。

『歴代委員長インタビュー』

目的

今後の方向性を考えるに当たり 30 年の歴史、先輩たちが築きあげてきた過去の歴史を認識し、進めていかなければならないと考えました。そのためにも 30 周年という節目の年である本年、「歴代委員長取材」という形で今日までの委員会の歴史、流れを振り返り自らが学ぶことを目的とし、取材を行いました。

1. JC に入会したきっかけは？

初代～第2代 西川太一郎先輩

佐久間副理事長（故人台東区委員会初代委員長）に誘われ入会。村山理事長（当時）より JCI のバッチを頂いた。入会当時のメンバー数は 300 名前後であった。

第4代 柳原祐之先輩

当時大学の同級生で西川太一郎氏に誘われ入会。初めての東京プリンスでの例会では、カッコのいい青年実業家が握手しているのを見て、ものすごい違和感を感じた。

第6代 竹内渥美先輩

地区委員会の発足前でしたが、友人である長田さんの強い勧めで例会に出席。

第7代 田中 健先輩

当時、自社でお世話になっていた公認会計士の紹介。その方も台東区委員会の OB。

第10代 砂永 宏先輩

東京 JC 渉外担当の方の紹介。

第11代 宮崎公行先輩

荒川区委員会の赤沼さんの紹介。

第13代 遠藤憲治先輩

私が入会する以前に、当会館で委員会が行われていて、その席に呼ばれ入会した。その時に、多くの同世代の人達がいて年代のギャップが無いので良いと思い入会した。

第14代 春日敏明先輩

一番上の兄が文京区委員会の OB であった。若手経営者が組織している会なので、考え方などの吸収を目的に入会した。

第15代 増野 繁先輩

当時、西川先輩が委員長だった。知人の紹介で委員会（一龍会館）と例会に出席したが、特に例会（東京プリンスホテル）は、独特の雰囲気を感じ、（綱領、JC 宣言）登録人数は、1500 名を超えていて、様々な友人関係を作りたいことから入会した。

第16代 桜井秀明先輩

福田昭夫さん、柳原祐之さんに奨められ、「このお二人が薦めるのであれば間違いはない」と思い、同世代の方との人間的な幅を広げたいと考え入会した。入会から卒業までの 13 年間で JC で過ごした。当時、荒川区委員会の会員数は 30 名位だった。

1. JCに入会したきっかけは？

第18代 瀬田茂道先輩

小林清三郎先輩と亡父が仕事のお付き合いがあった関係で、27歳の時にお声掛けを頂き、28才で入会した。12年間をJCで過ごした。

第19代 福田晴通先輩

遠藤先輩が委員長時代、瀬田先輩から母親を通して声を掛けて頂き、例会に参加し、31歳の時に入会をした。

第20代 伊澤 英敏先輩

増野先輩と遠藤先輩に勧められ(2、3回お断りをした。)遠藤先輩がラストの年に入会した。

第21代 山口明義先輩

竹内先輩の紹介で、父親と赤沼先輩が、たまたま東京商工会議所の会議でとなりの席になり両方から誘われて入会した。

第22代 鈴木 久先輩

27歳頃より誘いを受けていたが、2回お断りをして、3回目に伊澤先輩と瀬田先輩に誘われて入会した。

第23代 熊井昌一郎先輩

法人会の会合に参加した時に、瀬田先輩と福田先輩にJCの例会に誘われ出席したら最後、そのまま入会してしまった。

第24代 安達豊基先輩

取引先の先輩に誘われて入会した。

第26代 磯川武志先輩

家業に入る前の会社の上司や諸先輩に「家業を継いで物足りないと感じはじめたらJC入れば!」と言われた事を記憶しており、3年後無料電話案内104で電話番号を聞きだし事務局に電話したのが入会のきっかけです。

第27代 中村健一先輩

瀬田委員長時代にJCに誘われましたが一度断わった。その後、取引銀行の若手会で鈴木先輩・川中子先輩と御一緒させて頂いた際に、お誘いを頂き法人会青年部会と1セットにて入会した。

第28代 村越裕之先輩

1999年の夏前頃に、東商荒川支部のスクエア協議会で皆さんと出会えたのがきっかけとなった。当時、現役だった安達先輩が座長を務めており、伊澤先輩をはじめとする区内の有識者と、当時のメンバーが会員であり、インターネットの普及を目指して活動していた。そんな中で、地元プロバイダーとして声を掛けて頂いたことが、私の人生の大きな転機となるJCとの出会いとなった。

第29代 横田剛一歴代

以前よりJCと言う組織の存在は認識しておりましたが、理解はしておりませんでした。幼馴染である小泉さんの強い紹介で委員会・例会に出席する中で、同じような年代、境遇の方々の見識の深さと行動力に魅了され入会を決意致しました。

2. JC 活動で得たものについて？

初代～第2代 西川太一郎先輩

JC を通して知り合った仲間とは現在も交流があり、大切な人的財産を得ることが出来たと思う。また、JC は人生の舞台の1つでもあった。

第4代 柳原祐之先輩

まずは自己の修練が行なえ、人脈ができたことが JC で得たものと思う。一年間役をもらい、その責任を持って JC 活動を行なうことで将来必ず仕事でも生きてくる。現役メンバーも委員長、理事になり理事会を体験し、多くを学んでいただきたい。

第6代 竹内渥美先輩

友人と経験。今でも当時の JC 仲間である干支の会は続いておりとても楽しくお付き合いしている。

第7代 田中 健先輩

友人と経験。

第10代 砂永 宏先輩

現在でもお付き合いのできる友人。

第11代 宮崎公行先輩

友人。

第13代 遠藤憲治先輩

友人。委員長時代の1年間は色々な意味で自分に自信が付き、人前で話ができるようになった。

第14代 春日敏明先輩

何かを得たいというよりも、「自分の中の使える部分を使って頂きたい」という気持ちが強かった。

第15代 増野 繁先輩

JC 経験が14年間という長さだったが、人との出会いが素晴らしかった。委員長の年がラストイヤー（卒業）であったが、とても良い経験でき、時間の使い方（段取り）が上手になった。

第16代 桜井秀明先輩

友情・友人関係。現在も会務系の同期委員長の方々と親交を深め、1年に3回の会合開いている。今はライオンズクラブに所属しているが、JC 出身の方がいるとすぐに打ち解ける。

第18代 瀬田茂道先輩

自分の人生において大きなものを得ているが、強いて言えば「これからの自分の生き方の仁義・筋道」を学ばせて頂いた。一人では何も出来ないという事を学んだ。

第19代 福田晴通先輩

卒業までの時間とお金はかなり掛かったが、得たものはものすごく多かった。強いて言うならば「哲学」や「理念」と物を考える根底を学んだ。

第20代 伊澤 英敏先輩

友達、仲間。一番気を使わない友人が出来た。現役時には分からなかったが、JC で繰返し訓練する事で身についた事が、OB となり卒業してから身に染みて分かった。

2. JC 活動で得たものについて？

第 21 代 山口明義先輩

多くの友人と知り合うきっかけとなり仲間ができた。大勢の前で話しが出来るようになり、また、事業計画書の作成が出来るようになり現在とても役に立っている。

第 22 代 鈴木 久先輩

友人、先輩、後輩、女房。

第 23 代 熊井昌一郎先輩

普段の生活や仕事では中々できない経験や体験、友人、先輩、後輩。

第 24 代 安達豊基先輩

良き先輩、友人、後輩。JC での経験から今、多くの成果が出ている。

第 26 代 磯川武志先輩

様々な JC での経験から誇りと自信と責任感と義務感が磨かれた。価値観が同じ友人と出会え、社会的な人との繋がり（人脈）が広がった。

第 27 代 中村健一先輩

様々な方達との出会いです、そしてその繋がりにより見識が広がった事。

第 28 代 村越裕之先輩

一に一生付き合うことができる友人ができた事。2に会社経営者としての常識・心構えが学べた事。3に会議の運営方法・書類の作成・作文能力が学べた事。

第 29 代 横田剛一歴代

一番は人脈であると思う。運動・活動・事業を通じ多くの方と出会い、共に語り汗を流しました。今手元にケース一杯の名刺が整理されておりますが、宝物です。その他多くの経験・・・失敗、恥をかいだことも多く、その都度仲間、先輩に助けられました。

今日の私があるのは JC のおかげ、人生を振り返り「もし JC を経験していなかったら・・・」と考えると想像もつきません。

3. 委員長時代の活動内容を教えてください？

初代～第 2 代 西川太一郎先輩

1975 年当時は地区委員会が設置されたばかりで会員数もほんの数名しかおらず、委員会の開催場所も区役所の出張所（ひろば館）で行っていた。内容としては会員拡大、情報交換が主であったが、特に会員拡大を最重要課題と位置付け、会員拡大を行なうために商工会議所、ロータリークラブ、ライオンズクラブに赴きそれぞれ会員のご子息を JC に入会させてくれないかお願いに伺った。その甲斐もあって二年間の委員長時代にメンバー数も二ケタになった。

3. 委員長時代の活動内容を教えてください？

第4代 柳原祐之先輩

1975年は正式なスタートでは無くこの年は地区委員会を作ろうというリードタイムを一年間もって地区委員会の存在・方向性を協議し、年に2、3回ブロック（荒川区・足立区・台東区）の集会を行ない地区委員会を模索した。そして1976年、地区委員会の正式なスタートとなり、地区委員会の存在をどう作るべきかを地区として模索中、わんぱく相撲が持ち上がり地区委員会の主事業として、1977年高橋委員長（第3代）時にわんぱく相撲荒川区大会がスタートした。地区委員会は会務系委員会とは異なる地域に密着した社会開発運動を具現化した形の事業がわんぱく相撲となる。委員長当時のメンバーは会務系と地区系の委員会に登録し、会務系では指導力開発、地区としては、わんぱく相撲を運動の軸とし、活動していた。第1回荒川区大会はチャリティーバザールを大会会場で行ない、委員長時の第2回荒川区大会では、初めて協賛金集めを実行した。

第6代 竹内渥美先輩

当時の区長である町田区長と協力してわんぱく相撲荒川区大会を開催。小学校、行政、公共団体に協力を要請し、頑張った。毎年恒例の、夏の箱根セミナーは、堺屋太一氏等を講師として招き行なった。

第7代 田中 健先輩

当時、地区委員会は、あまり活性化しておらず、浅田先輩がオール東京で活躍しておられた。委員長時は、ロータリークラブ、ライオンズクラブ等に挨拶に行く機会もあり、多くの友人や先輩と親しくなれた。

第10代 砂永 宏先輩

わんぱく相撲、行政との関係、親睦会を開催。段ボールプレーを行った。子供達にお金を掛けず、遊ばす事をテーマに考え、段ボールを切ったり、貼ったり、色を付けたりして戦車などを作って遊んだ事業。

第13代 遠藤憲治先輩

10周年時代から、当委員会活動を外部発信して行こうと考え「区民シンポジウム」を開催した。

第14代 春日敏明先輩

委員長時の活動は、他地区で余っている予算を戴き荒川区内の活性化を目的に多くの事業を行ない、荒川区委員会を認めてもらおうとした。

第15代 増野 繁先輩

事業「地域を考えるシンポジウム」の担当実行委員長の井ノ部先輩が色々なアイデアを考えてくれたことを思い出す。当初、小林清三郎先輩にお願いする予定のコーディネーターの役割は、最終的に自分になってしまい多くを学ばせていただいた。

第16代 桜井秀明先輩

事業として、ウォークラリー（ウォーク&ウォーク）を9月に開催し、当日は台風にぶつかってしまったが、中止をせずに強行した。また、次年度に40周年記念の全国大会があり、PRのため、一泊二日か日帰り全国を廻った。また、同期にパソコンの出来る方がいて、情報発信と情報交換が出来るようにパスネットワークを構築し、情報交換を行なった。

3. 委員長時代の活動内容を教えてください？

第18代 瀬田茂道先輩

渡辺委員長年は、日本JCの40周年式典があり、わんぱく相撲、会員拡大以外の委員会事業が行なえなかった。

40周年後、新たな第一歩と考え、前から話が出ている「区民会議」設立に向け、区民との共通な問題である「ゴミ」をテーマにした事業を起こし、リサイクル重要性の呼びかけを行なった。

第19代 福田晴通先輩

前年から引き継いだゴミ問題。前年度はパネルディスカッション等、室内型の事業であったが、屋外に出て行動型の事業を行なった。順井先輩の知人のシコタン（竹の創作楽器）奏者に声を掛けてもらい、荒川遊園のアリスの広場で遊びや手作り楽器によるコンサートを行ない、横に張ったテント内で参加者にリサイクルを手に触れ、物の大切さを訴えた。

第20代 伊澤 英敏先輩

瀬田先輩からのゴミ問題の流れの継承し、リサイクルを善意、ボランティアだけでなく、ビジネス（経済）に繋げる方法を研究、考察した。バブル経済も終わり、2次会、懇親会等で派手さを少なくし、皆が参加しやすい環境づくりを考え実行した。

第21代 山口明義先輩

瀬田先輩・福田先輩・伊澤先輩の流れで、紙のリサイクル事業を継続した。当時、周囲の目からJCのイメージを変えたく、オフィス町内会と言う事業を行なった。各企業の紙ごみ等を計量し、約5ヶ月間調査を行ない、翌年事業の「荒川エコノミックリサイクル」に繋がった。

第22代 鈴木 久先輩

「荒川エコノミックリサイクル」の発会式を行なった。山口（直前委員長）さんからの継続事業となりましたが、川中子（実行委員長）さんを中心に、皆さんが毎晩のように事業計画を練ったことを鮮明に覚えている。

第23代 熊井昌一郎先輩

前年まで継続してきた「荒川エコノミックリサイクル」のシステム稼働がはじまり、本年からは、新規事業「地域コミュニティの重要性についての調査、研究」を今まで中々関わりを持てなかった中学生を対象に開催した。

第24代 安達豊基先輩

秋期事業は、区内の活性化を目指し、ホームページの作成講座を開催し公開までを支援し、既存の企業サイトを含め、23区内ではじめての区内企業紹介を東商のサイト上に開設する。

また、熊井さんがホームタウンシップ委員会に出向していた関係で、「フットサル大会」を区内で開催、区内の公立中学数校と開成中学校や朝鮮中学校が参加し、ケーブルテレビで放映された。当時、東京ガスの支社長村林（現FC東京常務）さんが協力していただいた。

第26代 磯川武志先輩

熊井先輩、安達先輩が行なってきたコミュニティの調査、研究を踏まえ、小学校を核とした「コミュニティの実践」を市民対象に行なった。また、委員会内のコミュニケーションを一番に考え、活性化に繋げた。

3. 委員長時代の活動内容を教えてください？

第 27 代 中村健一先輩

◆第 25 回 わんぱく相撲荒川区大会 ◆荒川区長選挙公開討論会 ◆東京都議会議員選挙
荒川区選挙区公開討論会 ◆秋期事業 クリエイティブ ARAKAWA(デジタルパーク 2001)
「コミュニティ ネットデイ」 ◆合同フォーラム 【地域コミュニティ】 「コミュニティ ネットデイ」 事業の報告。

第 28 代 村越裕之先輩

◆コミュニティネットワーク「小学生先生」

第 29 代 横田剛一歴代

私共(社)東京青年会議所は、「明るい豊かな社会」の創造を目的として六つの政策テーマを軸として運動をしてきた。

2003 年度の東京青年会議所の年間スローガンは、「この国を愛することからはじめよう！今再び、変革の能動者として、目覚めよ Jaycee！新世紀日本の再建は、我々青年の責務である。」でした。荒川区委員会もこのスローガンの基に「住み良い街づくり、人づくり」を目指し、教育政策を主軸テーマとして 1 年間の運動と事業展開を行なった。

5 月 10 日には、加川担当副委員長のもと「第 27 回わんぱく相撲荒川大会」を開催し、

- ・礼儀の大切さ(物事のけじめや感謝の気持ち)
- ・勝負の厳しさ(勝つ喜びと敗者へのいたわり、負ける悔しさと勝者への畏敬)
- ・目標を定め努力することの尊さ(夢と創造の充実)

を区内在住の児童及び保護者の皆様に改めて発信すると共に大会スローガン「ひろげよう心に届く ありがとう」を当日参加の児童及び保護者の皆様に声高々に伝えた。

9 月 20 日には秋期事業として、クリエイティブ荒川(デジタルパーク 2003)を飯沼担当副委員長のもと開催した。IT を通じ、あらゆる世代の方が、コミュニケーションをはかる機会を作り、地域の児童、学生に優しく経済を理解してもらおうと同時に、人と人とのふれあいである、アナログコミュニケーションの尊さを伝える目的で行ない、具体的には、日暮里地区の地域ポータルサイトの立ち上げを行なった。

また、東京青年会議所として 2000 年度より取り組んできた選挙公開討論会についても、衆議院解散・総選挙があった経緯により、同じ選挙区の括りとなる墨田区委員会との共催で公平中立の立場で、立候補予定者にご参集いただき 10 月 21 日に佐藤担当副委員長のもと開催した。混迷日本の前途を切り開く我々の代表を選ぶための大切な選挙に多くの有権者が関心を持ち、結果投票率が、向上するよう努めた。

4. 活動中の面白かったエピソード等？

初代～第 2 代 西川太一郎先輩

委員長を退いた後の都議任期中(35 歳～)に東京都の幹部に働きかけ青年会議所のメンバーを審議会のメンバーに最大で 6 委員を送り出すことが出来たのは最大の成果であった。

また、継続事業となったわんぱく相撲では数々の思い出がある。大会当日に「さらし」を巻くことに気づき、慌てて呉服屋に買いに行き開催時間を遅らせてしまった事。そして、伊賀金太郎氏との出会い。伊賀氏には第 1 回よりご尽力頂き現在もご協力頂いていることに深く感謝の意を表したい。それとこれは苦い思い出になってしまうが、女の子が優勝し蔵前国技館での大会当日、相撲協会から女の子は土俵に上げられないと言われ、これがマスコミ沙汰になり当時の労働省 婦人青少年局長 森山真弓氏(後に内閣官房長官 法務大臣等歴任)に相撲協会幹部や佐久間副理事長と説明に出かけた思い出がある。

4. 活動中の面白かったエピソード等？

第4代 柳原祐之先輩

わんぱく相撲荒川区大会で女の子が優勝してしまい、国技館の土俵に上る、上らないと男女平等を掲げている森山真弓さんがその事に噛み付き、大騒ぎになった。

また、その時わんぱく相撲に参加した子供が相撲取りとなった（武蔵川部屋 荒の波）ことや、大会終了後メンバーが着替えに帰っている1時間ぐらいに、伊賀さんと2人で飲んで徳利を10本ならべ、メンバー集合打ち上げ前に酔っ払ってしまったことを鮮明に覚えている。伊賀さんとの出会いは、高橋委員長時代に浅田先輩の紹介で知り合い相撲の審判・練習会の稽古を第1回わんぱく荒川区大会より協力してもらった。初めに頼んだときは、俺はいやだよって断られたがその後、メンバー皆で口説き落とした。

第7代 田中 健先輩

委員会の登録料は覚えていないが、懇親会後の2次会は銀座辺りで「JC 価格」というものが有り、5千円程度で飲め、とても楽しかった。

縁あって熊井君のスポンサーをさせて頂いたが、彼が委員長をすると聞いた時は、とても嬉しかった。

第10代 砂永 宏先輩

委員会で、お酒が出る会もあり、2次会も楽しかった。また、わんぱく相撲の準備では、看板作成中に一龍会館の畳を切ってしまった。協賛金周りでは60万円程集金でき、他地区へも集金に歩いた。荒川区委員会から最優秀JC賞を2名取る為に色々な活動した事。

第11代 宮崎公行先輩

例会、委員会、小委員会、全てにお酒が出ていて、大した事はしていないが、全てが楽しく、いつも参加していた。協賛金も銀行の支店毎に戴けた良い時代あった。しかし、東京ガスだけは、いつもせこかった。出費は、一例会・委員会で7,000円位。

第14代 春日敏明先輩

委員会の時は銀座、六本木で朝までなんて事もあった。荒川区という地域がら、某地区(○原)にも良く行った。クリスマス家族会などに家族ではない色々な方々（銀座のマ○、某地域の○性）を連れてきていた覚えがある。

第15代 増野 繁先輩

活動において役割分担を明確化にしたり、当時、委員会や例会の出席率が低かった為、色々試行錯誤して、メンバー全員にバースデーカードを送付した。あるメンバーからは、男性から生まれて初めてもらった。本当に人を動かす事の難しさを感じた。

第16代 桜井秀明先輩

40周年の全国大会PRで全国を廻った帰りに、電車の中で倒れてしまい、たまたま電車の中に乗り合わせた通信病院の先生方に診てもらい、そのまま通信病院に運ばれた。診断結果は「飲みすぎ」という事だった。

第21代 山口明義先輩

オフィス町内会の事業名称が通らなく2-3日後に名称を「荒川エコノミックリサイクル」に決定した。実行委員会を多く行ない、夏場、紙くず置き場での仕分け作業を皆でやった。最初の頃は10人程度で語っているだけの事業だったが最終的には社会に認知された。

第22代 鈴木 久先輩

委員長の年の1月5日、仕事始めの日に会社が火事（小火）にあった。また同年10月、メンバーの協力により思い出深い結婚式を挙げる事ができた。

4. 活動中の面白かったエピソード等？

第 23 代 熊井昌一郎先輩

鈴木さんと同じで委員長在任中、会社が火災にみまわれてしまった。また、新規事業の立ち上げで、何をやるかが決まるまでとても苦労したことを覚えている。約半年間、担当副委員長の安達君と区役所通いをし、最後にはメンバー皆の協力で事業を行なえたことを覚えている。

第 24 代 安達豊基先輩

翌年が F C 東京設立の年であり、区内で私設サポーターズ倶楽部の設立を西野（第 53 代理事長）ホームタウン委員長依頼され、区役所職員、東京ガス関連企業、J C 関係者より出資を募り「アシスト荒川」を設立し、株主となる。

第 26 代 磯川武志先輩

毎日のように朝方まで JC について納得のいくまで話しあった。開いている店も無くなり最後は愛車の中で・・・・・・熱かった。

第 27 代 中村健一先輩

事業開催日や旅行会では、小学生のように興奮状態になっていた自分が一番の思い出です。その後の大爆発・大暴走。この場を、お借りして皆様にご迷惑をおかけいたしましたことお詫び致します。

委員会メンバー全員が「自燃人」となり一丸となって、例年を越える 5 つの事業を展開しながら 100%出席委員会と例会を達成し、それぞれの立場で 1 年間最後まで支え、担いでくれたことに感謝します。そして、前年までのアワード受賞を継続し、「最優秀東京 J C 賞」を受賞できた事。その受賞記念として、荒川区委員会として尾久の原公園の「しだれ桜」の里親となり公園内に桜の木を植樹した事。

第 28 代 村越裕之先輩

あまり「面白かった」エピソードはないかとも思います・・・・・・が、個人的には、活動を行っていく中で、子供たちが私たちにとても興味を持ってくれていた事と、そんな子供たちの発想の面白さに感動したり、厳しい見方に反省したり、毎日が充実しておりすばらしい経験をした 1 年であったと思います。

そんな中に面白いものもありますが、個人のプライバシーの問題もありますので、この場では、差し控えさせていただきます。m(_ _)m

また、ほとんど毎晩、JC 活動を行っており、良く西日暮里あたりで国際交流を行い JC 談議を朝方まで行った事も思い出します。「委員長と連絡が取れないなら、そこの店を覗けば・・・・」なんてことを言っているメンバーもいたようですが、今となっては、良き思い出ですね。

第 29 代 横田剛一歴代

今振り返ると忙しくも充実した一年間であったと思います。委員会一週間前のスタッフ会の開催、スタッフ会一週間前の幹事会の開催幹事会一週間前のはまゆう会議の開催（小泉総括と二人での打ち合わせ）委員会が終了するとすぐに翌月委員会の為のはまゆう会議です（笑）改めてメンバー、スタッフ、特に小泉総括幹事（当時）には感謝申し上げます。

それ以外にもさすが拡大担当渡辺副委員長とも言えるべき、荒川区委員会として久しぶりに女性メンバーの入会（しかも 2 名）。二度の 100 パーセント登録例会の達成（小木 PJ リーダーの強引さにはメンバーもたじたじ・・・・）。卒業旅行にて卒業生とのお別れのバーベキューパーティーでの大騒ぎ。12 月クリスマス例会においては、「理事長特別賞」を荒川区委員会として頂き、ご卒業される皆様に花を添えることが出来ました。思えば、委員長拝命の決意、スタッフ組み、所信作成より卒業式、クリスマス家族会まで多くのメンバーに支えられ委員長と言うお役を演じることが出来ました本当に有難う御座いました。

5. 今後の荒川区委員会に望むことは？

初代～第2代 西川太一郎先輩

現役メンバーに望むことはまず、立派な経営者になってもらいたい。そして余力をJCにささげられるよう健全経営を心掛け、その上でJCで得た精神を自分の会社を通して社会的責任を果たして頂きたい。

また、区、行政へのチェック機能としての役割も念頭において活動して頂きたい。

第4代 柳原祐之先輩

荒川区委員会の卒業生(OB)は、現在荒川区のリーダーとして各方面で活躍されている。そのネットワークを十分に活かし、若い力、若い頭脳をフルに使い自由に話ができて荒川区の将来の夢を語れ、問題を抽出できる会議体を作っていただきたい。

第6代 竹内渥美先輩

私たちの時代より今の現役は頑張っていると思う。JCは、他の団体と違い40歳までという「歯止め」が有るのが、最大の特色。その特色を活かし精一杯がんばって下さい。

第7代 田中 健先輩

一生付き合える仲間と、将来必ず役に立つ経験をいっぱいして下さい。

第10代 砂永 宏先輩

まじめに事業を行うのも良いがもう少し砕けてはどうか。現役とOBとの「すきま」が有りすぎる感じがするので解決策をお願い致します。

第13代 遠藤憲治先輩

入会したからには役職を経験してほしい。過去にとらわれずその時代時代にあった活動を行なってほしい。過去の記録をしっかりと残して置く事。

第14代 春日敏明先輩

その時代、その時代の考え方があるので特にない。

第15代 増野 繁先輩

JC 活動・運動は、(地域密着の考え方) 地域との繋がりをどうしたら上手くできるのか、それから自己修練を積極的に、そして前向きに楽しく活動して下さい。いつの時代もメリハリ(ケジメ)は、忘れない様に。

第16代 桜井秀明先輩

会員数が15～16名だと委員会運営、事業など、何事をするにもキツイので会員拡大重点的に行なってください。

第18代 瀬田茂道先輩

今のままの活動で良いとは思いますが、社会的に厳しい時代、メンバーを増やし、頑張ってください。

第19代 福田晴通先輩

少人数でも問題を解決の出来るような力のある委員会にしていって下さい。

5. 今後の荒川区委員会に望むことは？

第 20 代 伊澤 英敏先輩

今年、荒川区委員会でわんぱく相撲以外の事業を行なわない事は、今迄に無い事。(今年は事業開催が出来ない年度ではない。) 事業をしなかった成果(活動)を次年度以降に繋げて欲しい。

第 26 代 磯川武志先輩

われわれ Jaycee は社会的・国家的・国際的な責任を自覚し、志を同じうする者相集い力を合わせ、青年としての英知と勇気と情熱をもって明るい豊かな社会を築き上げよう。上記「綱領」を重んじた活動を望みます。また、メンバー同士の意思疎通が重要です。

第 27 代 中村健一先輩

同じ志をもって、メンバーとなり運動をしているのです。メンバー同士が、尊重し協調しあい切磋琢磨し、地区委員会として地域に影響のある運動を展開して頂きたいと思っております。みんな仲良く！

第 28 代 村越裕之先輩

この度、新しいNPO団体(竹内一先輩、小林先輩が理事)を立ち上げたので、ぜひ、協働できるような動きができると嬉しいです。

第 29 代 横田剛一歴代

先輩諸氏より引き継がれた伝統を重んじながらも時代を反映した斬新な運動活動をされて下さい。

褒章・表彰受賞一覧 1976～1998

年度	褒章・表彰名	受賞者
1976	6 大会議出席賞	中 村 英 文
1979	例会・会務系委員会・地区委員会皆出席賞	中 村 英 文
1982	例会・会務系委員会・地区委員会皆出席賞	守 屋 勝 男
1983	出席率優秀委員会賞	荒川区委員会
	優秀対内活動賞	小 山 和 美
1984	優秀対内活動賞	興 倉 幸 吉
	優秀対内活動賞	小 林 清三郎
1986	重点テーマ賞（新時代を目指すニューJC 創造推進賞）	荒川区委員会
1987	優秀拡大賞	遠 藤 憲 治
1990	優秀活動賞	荒川区委員会
	皆出席賞	半 田 眞 三
	優秀活動賞	皿 井 一 郎
	優秀新人賞	半 田 眞 三
1991	6 大会議出席賞	半 田 眞 三
	優秀活動賞	半 田 眞 三
	優秀新人賞	伊 澤 英 敏
1992	優秀活動賞	伊 澤 英 敏
1993	5 大会議出席賞	半 田 眞 三
	皆出席賞	半 田 眞 三
	優秀活動賞	織 田 善 信
	優秀新人賞	杉 田 幸 男
1994	優秀東京 JC 賞	荒川区委員会
	5 大会議出席賞	半 田 眞 三
	優秀活動賞	須 貝 文 晴
	優秀新人賞	川 中 子 雅一
1996	優秀東京 JC 賞	荒川区委員会
	優秀活動賞	安 達 豊 基
1997	優秀活動賞	川 中 子 雅一
	優秀新人賞	磯 川 武 志
1998	優秀活動賞	尾 賀 道 弘
	優秀活動賞	郷 田 浩 一
	優秀活動賞	塚 田 政 成
	優秀新人賞	染 谷 由美子

褒章・表彰受賞一覧 1999～2003

年度	褒章名	受賞者
1999	優秀東京 JC 賞	荒川区委員会
	優秀活動賞	中 村 健 一
	優秀新人賞	大 原 誠
2000	優秀東京 JC 賞	荒川区委員会
	優秀新人賞	小 木 忠 之
2001	最優秀東京 JC 賞	荒川区委員会
	優秀活動賞	小 高 栄 治
	優秀新人賞	阿 部 和 夫
2002	優秀活動賞	中 村 健 一
	優秀活動賞	小 泉 浩 章
	優秀新人賞	竹 内 明 浩
	優秀新人賞	小 林 正 幸
2003	理事長特別賞	荒川区委員会
	優秀活動賞	加 川 清 武
	優秀活動賞	中 村 健 一
	優秀活動賞	小 林 正 幸
	優秀新人賞	森 藤 弘 一 郎



2001 最優秀東京 JC 賞受賞



1982 12月例会卒業生



『関係諸団体一覧表』

(順不同・敬称略)

荒川区・荒川区教育委員会・東京商工会議所 荒川支部
荒川区商店街連合会・荒川区青年団体連合会
荒川ロータリークラブ・荒川リバーサイドロータリークラブ
荒川西ライオンズクラブ・荒川ライオンズクラブ
東京都都市計画局・荒川法人会青年部
荒川区しんきん協議会・荒川区婦人連合会・荒川区清掃局・
東日本電信電話 NTT 荒川支部・東京電力(株)・東京ガス(株)
荒川区ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会
荒川区を拠点に活動する「アンサンブル・サウルス」
米国ヴォーカルグループ「モーリー・オア・レス」
竹鼓舌(チコタン)白作竹楽器による演奏集団
オフィス町内会・区内古紙業者の方々
南千住2丁目青年会太鼓同好会
古紙連絡協議会・東京都トラック協会荒川支部青年部
区内警察署・区内消防署・荒川区PTA連合会
区内小学校・区内中学校
武蔵川部屋・桐山部屋
FC東京アシスト荒川・荒川区サッカー協会
荒川スクエア協議会・荒川区社会福祉協議会
荒川ベンチャー協議会・荒川区IT推進協議会
荒川区高齢者クラブ・荒川相撲甚句会・NPO法人よせぎ
アジアンロード・東京フットボールクラブ(株)
荒川区少年団体指導者連絡会・荒川区体育指導員

当委員会が30年の歴史の中、「明るい豊かな社会の構築」を目指し、運動してきた背景には、多くの関係諸団体の協力があり感謝いたします。また、今後のあらゆる活動に求められるものは“連携”と考えています。

編集後記

時代にあった JC 運動・活動を行なっていくうえで、この 30 年のという歴史の認識が必要であるという強い考えから、30 周年という節目の年に未承認ではありますが、委員会内で事業と位置づけメンバー一丸となり取り組んでまいりました。本記念誌及び記念 CD-ROM を作成するに当たり「荒川区委員会 15 周年記念誌」「20 周年記念誌」「25 周年記念誌」などを参考に、また、歴代委員長にお会いしインタビューをさせていただいたことにより、発足当時の「明るい豊かな社会の構築」のための委員会活動や運動を、再認識することができ、多くの諸先輩方とより良いコミュニケーションが図れ、今後の委員会運営に役立つ活動が行なえたと確信しております。

今後の会員拡大、事業の資料としての一助となり、他団体や地域社会でご活躍されている OB 諸氏の方々と連携を強化して、インターメディアリー(主体的仲介者)としての責務を果たすと共に、希望に満ちた明るい豊かな社会、理想の社会の実現に向け、青年としての勇気と英知と情熱を持って活動していく所存です。

最後になりましたが、この記念誌の作成に当たり多くの諸先輩方に貴重なお時間を頂戴し、多大なるご指導ご尽力いただきましたこと深く感謝申し上げます。

30 周年式典実行委員会一同

～30 周年記念 CD-ROM CONTENTS～

社団法人東京青年会議所 荒川区委員会
発足 30 周年記念 CD-ROM



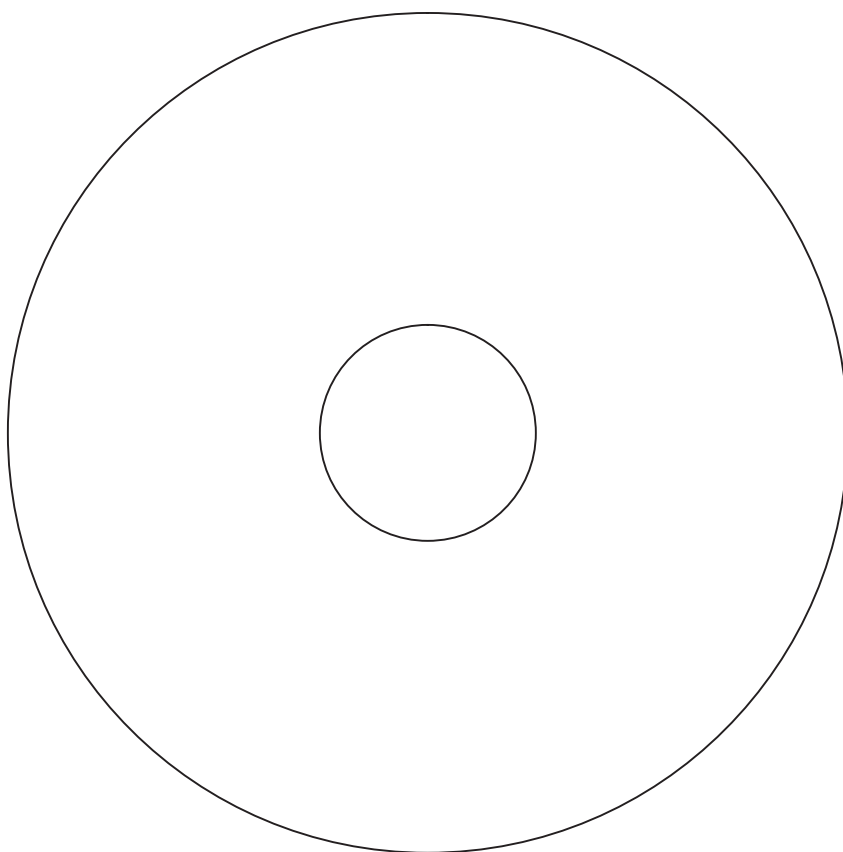
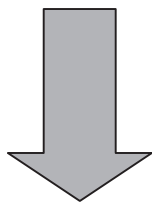
荒川区委員会 Web : <http://www.arakawa.tokyo-jc.or.jp>
 荒川デジタルパーク <http://jc.jah.ne.jp>
 東京青年会議所 Web : <http://www.tokyo-jc.or.jp>
 日本青年会議所 Web : <http://www.japan-jc.or.jp>

～ Contents ～

- ◆ 30 年の歩み
- ◆ 活動報告 (1975～2003)
- ◆ 過去 5 年間の運動報告
今後の運動展開 (2004)
- ◆ 30 周年資料
- ◆ 会員企業 HP リンク集

1975-2004
ANNIVERSARY 30th
社団法人東京青年会議所 荒川区委員会

荒川区委員会 30 周年記念 CD-ROM





Tokyo Junior Chamber Inc.
Arakawa-word Committee.